

2016 年度 小委員会活動成果報告

(2017 年 2 月 14 日作成)

小委員会名	建築情報教育小委員会	主 査 名：大西康伸 就任年月：2015 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	情報システム技術委員会	委員長名：倉田成人
設 置 期 間	2015 年 4 月 ～ 2017 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>建築の様々な分野で新しい情報システム技術の開発やその利用が進められている。その中でも BIM や Digital Fabrication については開発・利用の進展が早く、常に新しい取り組みが行われている。本小委員会では、「情報システム技術を活用した創造的な建築設計プロセスやそのマネジメント技術」を教育の中で生かすための方法を検討・提案することを目的とした前身の「建築情報教育小委員会」での活動を継続・発展させる。</p> <p>初年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学の建築情報教育の先進事例調査 ・ ゼネコン・設計事務所の新人教育における建築情報教育の先進事例調査 ・ 研究会の開催 <p>2 年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学の建築情報教育の先進事例調査 ・ ゼネコン・設計事務所の新人教育における建築情報教育の先進事例調査 ・ 建築学生への新しい情報システム利用技術の啓蒙活動 ・ 研究活動成果のとりまとめ 	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有	
	主査：大西 康伸 (熊本大学大学院先端科学研究部 准教授) 幹事：村上 祐治 (東海大学基盤工学部 教授) 委員：加戸 啓太 (千葉大学大学院 助教) 木村 謙 (エーアンドエー株式会社研究開発室 室長) 倉田 成人 (筑波技術大学産業技術学部 教授) 澤田 英行 (芝浦工業大学システム理部環境科 教授) 下川 雄一 (金沢工業大学環境・建築学部 准教授) 竹中 司 (アンズスタジオ、豊橋技術科学大学 研究員) 沈 振江 (金沢大学環境デザイン学系 教授) 中木 亨 (宮城大学地域連携センター 特任調査研究員) 中澤 公伯 (日本大学生産工学部 准教授) 中田 千彦 (宮城大学事業構想学部 准教授) 前 稔文 (大分工業高等専門学校都市システム工学科 准教授) 松島 史朗 (豊橋技術科学大学建築・都市システム学系 教授) 松本 裕司 (京都工芸繊維大学デザイン経営工学部門 助教)	
設置 WG (WG 名：目的)		
2016 年度予算	130,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	3 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	

<p>催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会 承認企画</p>	<p>1. 第39回情報・システム・利用・技術シンポジウム ・小委員会企画OS「建築情報教育の今」 参加者数 25名 『第39回情報・システム・利用・技術シンポジウム論文集』所収</p>
<p>大会研究集会</p>	
<p>対外的意見表明・パ ブリックコメント等</p>	
<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)</p>	<p>3、4ヶ月に一度、建築情報教育に関する先端事例を2名の講師が紹介する レクチャーを実施した。各回の講師には、1名を小委員会所属委員とし、もう1名 は当該委員がテーマにあわせて招いた外部の方とした。小委員会内で実施したた め公には公開していないが、情報システム技術委員会委員は、事前に連絡がある 場合には聴講可能な運用とした。</p> <p>また、小委員会に参加できなかった委員のために、レクチャーを録画し発表資 料と合わせて小委員会限定でウェブ配信を行っている。</p> <p>以下がこれまでに実施したレクチャーである。</p> <p>第一回 (2016/6/30)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・竹中 司「建築情報教育と職能」 ・豊田 啓介「建築教育の現状と今後・特に建築情報学と言う視点から」 <p>第二回 (2016/11/8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・澤田 英行「大学における社会人基礎力を背景にした建築設計教育」 ・綱川 隆司「今期行っている社内のパラメトリック設計教育や英国の AA スクールへの留学について」 <p>第三回 (2017/2/17)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倉田 成人「研究室での教育活動紹介 (仮)」 ・若月 大輔「筑波技術大学での聴覚障害学生に対する情報教育」 <p>レクチャー及びその後の討論の結果、建築情報教育がどうあるべきかに対して 示唆に富む成果を生んでいるという手応えを感じている。なお、上記の連続レク チャーは、活動計画の「大学の建築情報教育の先進事例調査」、「ゼネコン・設計 事務所の新人教育における建築情報教育の先進事例調査」に対応する。</p>
<p>委員会活動の問題点 ・課題</p>	<p>1. 小委員会といいながらも、毎回ちょっとした講演会となっている。情報シ ステム技術委員会委員であれば参加できるとしながらも、積極的に情報発 信しておらず参加者はほとんどいない。非常にもったいない状況であるた め、どうかして外部の方々にも参加いただきたいと考えている。</p> <p>2. 活動成果を小委員会内だけでなく、どのように外部と共有するか。報告書形 式では伝わる内容が限定的であるため、毎回のレクチャーを凝縮したよう なシンポジウム/セミナー等が必要ではないかと考えている。なお、次年度 は大会で研究集会を予定している。</p>
<p>その他</p>	